



築山小では、9月から余裕教室を食堂に活用した「すくうるランチ」が始まりました。この日は、6年3組と3年3組との初めての会食でした。



いつもの給食とひと味違う
おいしさがあります

築山小6年3組の横田高男くん(左)
3年3組の鈴木理沙さん(右)

丸いテーブルをみんなで囲んで食べる給食は、ふだんの教室とは違う味がして、たくさん食べちゃいます。

初めて一緒に食べて、ちょっと恥ずかしかったけど、お話もできました。また仲良く食べたいな。

おいしく 給食 食べてるかい？

小学校入学から中学校卒業までの9年間、勉強もいっぱいあるけれど、給食もずいぶんたくさん食べることになります。最近の給食は、多彩なメニューが登場し、いろいろなクラスと一緒に食べたりとだいぶ様子が変わってきました。一方、給食にまつわるエピソードは、大人になっても懐かしかったりします。給食はきっと、小中学校時代の大事なものなんだ。



ランチルームから
にぎやかな交流が
広がってほしい

築山小3年3組の学級担任
たかのほし まき
鷹嘴 牧先生

クラスの子どもたちは、上級生と一緒に食べる給食を、緊張しながらも楽しんでいるようです。子どもたちは、クラスや学年をこえて遊ぶことが少ないようなので、にぎやかなランチルームの給食から、交流の輪が広がってほしいなと思います。

最近では、ごはんよりもパンが好きな子どもが多いのにちょっと驚きました。私が小学生のころ、家では和食ばかりだったので、シチューやスパゲティなど洋風の給食がうれしかったなあ。

一緒に食べるのが
心の栄養にも
なっているのでは

築山小PTA副会長
伊藤政子さん



家でも子どもはよく給食の話をしてきます。私のころに比べると、メニューも調理の仕方もバラエティがあって、今の子どもは幸せですね。

家でのご飯を、つい子どもひとりきりで食べさせてしまう家庭も多いそうなので、みんなで食べる給食は、心の栄養にもなっていると思います。

給食のあゆみ

始まりは昭和7年

秋田市の学校給食は、昭和七年、土崎小学校と旭北小学校で、経済的に恵まれない子どもたちに出されたのが始まりです。内容はごはんのみとみそ汁といったものでした。

その後、昭和十九年には、旧秋田市内のすべての小学校で、栄養不良の児童を対象におかずだけの給食が実施されるようになりました。当時は食糧難の時代。給食の材料をまかなうため、仁別へ山菜を採りに行く学校や、家庭に縄を張って二シンやホツケを干したりする学校もありました。

児童全員に給食が出されるようになったのは、戦後になってからのことです。

昭和二十二年には、脱脂粉乳やコンビーフなどが献立に加わりました。脱脂粉乳は牛乳の脂肪分を取り除いた粉末で、独特のにおいがありました。



昭和22年ころの給食。脱脂粉乳は大きな釜で暖め、ミルクポットに入れて教室に配られました。

昭和二十六年以降、おかずだけの給食から、パン、ミルク、おかずのそろった現在の形態(完全給食)へと変わっていきます。

昭和三十年代になると、中学校でも順次、完全給食がスタート。小学校は、昭和四十一年以降、すべての学校で完全給食となります。